

30年6月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
入荷動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	外材	△ 16.7	0.0	0.0
在庫動向	国産材	10.0	0.0	0.0
	外材	33.3	16.7	16.7

・国産材ラミナの入荷動向は3カ月連続横ばい推移。外材は6月の減少から7月、8月は横ばいに。

・国産材ラミナの在庫動向は6月の増加から7月、8月は横ばいに。外材は3カ月連続増加。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材、その他ラミナの購入価格動向は3カ月連続横ばい推移。欧州材は強保合。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・入荷・在庫ともスギ、カラマツともに横ばいである。
・ヒノキ入荷動向は、4月から新しいシフト体制として、人員なども再配置し結果生産が落ちてしまったため5月までは外部からの購入ラミナは若干抑えてきた。生産は回復してきたものの、まだまだ仕掛原料が多くあるため、それらの消化を優先する。8月頃には仕掛在庫も平準化できる見込みであり、9月頃から仕入れも元に戻したい。米ヒバの入荷動向は、4月から新しいシフト体制として、人員なども再配置し結果生産が落ちてしまった、また5月、6月と製品の販売量も伸びていないため、6月も引き続き入荷量を抑えた。7月から入荷量はそのまま横ばい推移させる予定。
・ヒノキの在庫動向は。当社新製材工場が順調に立ち上がってきており、自社製材量が大幅アップ。一方、製材以降の集成材生産はシフト変更の影響で生産大きく落ちており、その影響でラミナ在庫は大幅増となった。6月で生産はかなり持ち直してきたが、まだ仕掛在庫は多い。7月、8月は在庫多いまま横ばい推移ないしは若干在庫減る見込み。米ヒバの在庫動向は、コストは別として、材料は集まりつつある。一方製品販売の方は未だ低調、7月以降の入荷も市況の動向を見ながら判断する。

(ラミナ価格動向)

・スギ、カラマツともに価格は横ばいであるが、やや上昇の傾向がある。
・ヒノキの価格動向は、6月の天候も比較的安定していたため、出材は順調、価格も安定している。欧州材は世界同時好景気の様相を呈しており、米国を筆頭に世界的に木材需要は高まっている。従って、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており、3rdQTの契約も2nd QT以上の価格提示がされている模様。米ヒバは急激に値上がりした米国向け米スギ材の代替需要により、米スギにつられて値段が上がってきたが、ここに来て米スギ価格は完全に天井に達し下落し始めた。米スギが手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

30年6月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
生産動向	国産材	0.0	30.0	20.0
	WW集成管柱	△ 16.7	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	△ 16.7	16.7
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	10.0	20.0	20.0
	WW集成管柱	△ 16.7	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	0.0	16.7
	米マツ集成平角	0.0	16.7	0.0
	WW集成平角	—	—	0.0

・構造用集成材の生産動向は、国産材は6月の横ばいから7月、8月は増加に。WW集成管柱は6月の減少から7月、8月は横ばいに。RW集成平角は6月の横ばいから7月は減少、8月は再び横ばいに。米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。

・構造用集成材の出荷動向は、国産材は3カ月連続増加。WW集成管柱は6月の減少から7月、8月は横ばいに。RW集成平角は6月の減少から7月は横ばい、8月は増加に。米マツ集

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
スギ集成管柱	△ 12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 16.7	0.0	0.0
RW集成平角	△ 33.3	0.0	0.0
米マツ集成平角	16.7	33.3	0.0
WW集成平角	0.0	0.0	0.0
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成材管柱の出荷価格動向は横ばい。
 ・ヒノキ集成柱、ヒノキ集成土台、カラマツ集成土台は横ばい。
 ・WW集成管柱、RW集成平角は弱含み。
 ・米マツ集成平角は強含み。
 ・WW集成平角、米ヒバ土台、カラマツ集成平角は横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・需要が盛り上がらないが、生産は前月と比較すると微増。翌月以降は非住宅向けの受注が見込まれるためやや増加する。翌々月は稼働日が少ないため横ばい見通し。集荷は関東を含め全国的に物件の動きが悪く横ばい。翌月以降は非住宅向けの出荷予定があるためやや増加。

・ヒノキ集成材の生産動向は、4月シフト変更の問題があり、生産大きく落とし、販売も低調だったが5月、6月で生産はかなり立ち直り、市況の動きも若干回復基調となって来た。今期後半は、消費税増税の駆け込み需要が期待でき、それなりの受注が見込めるため7月頃から少しずつ増産体制としていきたい。

・WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材が価格競争力があるため、WW集成材からの樹種変更が少しずつ増えて来たため、生産量は少しずつ低下しているのではないかと思われる。

・RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、6月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると言う、従って増産にも踏み切れないのではないか。ただ、下期からは消費税増税に関連した駆け込み需要の影響が期待できる事から8月頃からは多少増産に移行できると思われる。

・米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。・米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップという事で顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。それに比して弊社の生産も減産となった。ただし、一部根強い米ヒバファンの顧客もおり、最低限の受注は確保できる見込み。・ヒノキ集成材の出荷動向は、6月も苦戦はしたが何とか目標の販売数量には到達できる見込み。当社は大手住宅メーカーとの長期契約による販売が多いため、マーケットが悪くても販売数量のベースを確保できることが有難い。7月、8月と下期に向かうにつれ少しずつ回復してくる予定。

・WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合する杉集成材が価格競争力があるため、WW集成材からの樹種変更が少しずつ増えてきた。今後WW集成管柱の出荷にも少なからず影響するだろう。

・RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、輸入完成品が多く入港しておりプレカット工場の在庫が重いことやマーケットの荷動きが低調なこともあり、出荷量は伸びていない模様。

・米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。

・米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。それに比して弊社の生産も減産となった。ただし、一部根強い米ヒバファンの顧客もおり、最低限の出荷は確保できる見込み。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は大手ビルダー向けが横ばいであり、また動きが悪いことも重なり値上げら通らない。カラマツ集成土台及びカラマツ集成平角はラミナが強含み状況が続いているが、市況が悪いため値上げできる状況ではない。

・スギ集成管柱は、当社生産品目ではないが、国内大手生産メーカーの東北の新工場の稼働が軌道に乗った事や、マーケットそのものが年明け以降停滞している事もあり、横ばい推移が続く。

・ヒノキ集成柱は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶はできない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。

・ヒノキ集成土台は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。

・カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきている物の、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。

・WW集成管柱は、当社では取扱いないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、前述の杉集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、杉集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移とのこと。荷動き悪化のため、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。

・RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販売63,000円/m³程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。価格もどちらかと言うと弱いくらい。欧州から完成品の値段は上がりに入ってくるのに、ラミナのコストだけは上げられるため、国内サプライヤーは非常に厳しいのではないか。事実一部値下げしての販売のうわさも聞く。

・米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。

・米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。